様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７３０８１５

研究課題名（和文）オーセンティック・アセスメントに基づく社会系教科の目標準拠評価モデルの開発と普及

研究課題名（英文）Development and spread of criterion-referenced evaluation model based on authentic assessment theory in social-studies

研究代表者
藤本　将人（FUJIMOTO, Masato）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：１０４０４２２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,300,000円、（間接経費）　990,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，「オーセンティック・アセスメント」と呼ばれる評価理論を社会科（市民性育成教育）に対応させ，我が国における目標準拠評価の実践を円滑に進めるための技法を開発し，さらにそれらを普及させるためのモデルを示すことにある。
開発した技法と普及モデルに基づいて，北海道教育大学附属釧路小学校，附属釧路中学校，北海道内における公立小学校，中学校にて社会科授業を開発し，実践を行った。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is applying authentic assessment theory to social-studies education. We developed assessment techniques and spreading model to Japan.
Based on techniques and model, we practiced social-studies education at Kushiro Elementary School attached to Hokkaido University of Education,Kushiro Junior High School attached to Hokkaido University of Education, public Elementary School and Junior High School.

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：4003

キーワード：社会科　評価　構成主義　オーセンティック　目標準拠評価

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

日本の社会科教育における評価実践を取り巻く状況は，以下の通りであった。

(1)2001 年 4 月，戦後直後から採用された「相対評価」を否定して，「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」を全面的に採用するように，公的文書により，評価に関する方針転換が通知された。

(2)この公的文書による方針の転換は，教育現場の評価実践に甚大な影響を及ぼしているが，現場教員から具体的授業に対応させた評価の方法が確立できていないという実践する上での根本的な課題が提出されている。

(3)特に，評価情報を分析する方法，また分析結果を授業・学習者にフィードバックする方法が理論的に提供されていないという意見が教育関係諸学会で提出されている。

教育現場から寄せられた実践上の課題を解決するためには，授業構成と評価方法を一体化して考察し，授業における学習者の認識結果を確定・査定する評価理論の提供が必要であり，さらにそれらを普及させるモデルを確定することが求められる。これまでわが国の社会科教育関係諸学会においても，その必要性が強く唱えられてきたものの，体系的かつ具体的な提案を施した主張は皆無であった。本研究では，評価実践に対する体系的かつ具体的な提案を行おうとした。

２．研究の目的

本研究の目的は，「オーセンティック・アセスメント」と呼ばれる評価理論を社会科（市民性育成教育）に対応させ，我が国における目標準拠評価の実践を円滑に進めるための技法を開発し，さらにそれらを普及させるためのモデルを示すこととした。

開発した技法と普及モデルは，北海道教育大学附属釧路小学校，附属釧路中学校，北海道内における公立小学校，中学校，高等学校にて検証し，その有効性を証明するところまでを研究の射程とした。

３．研究の方法

以下の９つの問いのもとに研究を実施した。

(1) 現在の社会科が育成を目指す人物像とはどのようなものか（目標構造の抽出）

(2) 目標を達成するために，どのような授業を組むか。（構成主義に基づく授業構成理論の抽出）

(3) 授業では，学習成果の評価の仕組みをどのように組み込むか。（評価手法の分析）

(4) 評価の結果得られた情報を，具体的にどのように分析するか。また分析ツールをどのように開発するか。（情報の分析手法の検討）

(5) 評価情報を授業や学習者の学びにどのようにフィードバックするか。（情報の利用方法の検討）

(6) 開発した評価技法（情報の分析手法と利用方法）をどのように普及させていくか。（普及のモデルの抽出）

(7) 開発した普及モデルは，日本の小学校，中学校において，どの程度有効的に機能するのか。（普及モデルの検証）

(8) (1)→(2) →(3) →(4) →(5) →(6) →(7)という研究手続きをとることで，目標準拠評価の原理と評価技法の開発，及び我が国における普及の手立てを明らかにしようとした。

(9) 抽出した評価技法と普及モデルの有効性を，北海道教育大学附属釧路小学校，附属釧路中学校，北海道内における公立小学校，中学校にて検証した。

４．研究成果

本研究の成果は，以下の通りである。

(1) 目標準拠評価の設計法について明らかにしたこと。（雑誌論文①②⑤⑥）

(2) 具体的カリキュラムを明らかにしたこと（雑誌論文④⑧）

(3) 実践可能な具体的な評価法について考察したこと（雑誌論文⑦）

(4) 評価のモデルを普及したこと（学会発表①②③④⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰）

(5) 成果を授業実践として発表したこと（学会発表③④⑤⑦⑧⑨⑮⑯⑳㉑）

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

①<u>藤本将人</u>・樋口達也・中村拓人・林　祐史・細川遼太・池田泰弘・森田耕平・今野碧・細野歩「北海道東部地域における教師教育の課題とその克服（2）－授業開発の実際－」『北海道教育大学紀要』Vol.64,1 号 2013 年 8 月 pp.149-161. 査読なし

②<u>藤本将人</u>・樋口達也・中村拓人・林　祐史・

細川遼太・池田泰弘・森田耕平・今野碧・細野歩「北海道東部地域における教師教育の課題とその克服（1）－社会科授業づくりの可視化と共有－」『北海道教育大学紀要』Vol.63,2 号 2013 年 2 月.pp.115-123. 査読なし

③藤本将人「バンスレッドライト提案の読み方と日本の研究に示唆するもの－研究における実践者と研究者との位置づけに注目して－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 77 集，2012 年 11 月，pp.65-68. 査読あり

④藤本将人・鎌田浩子・川邊淳子・濱地秀行・野口泰秀・太田和幸・大西康史・秋山玲奈・小林あい「教員養成課程における金融教育実践者育成のためのカリキュラム開発－北海道教育大学講義「金融教育」の場合－」『北海道教育大学紀要』Vol.63,1 号， 2012 年 8 月，pp.13-23. 査読なし

⑤細川遼太・藤本将人「構成主義に基づく社会科学習評価の設計－単元「ごみ問題と社会」の場合－」『北海道教育大学紀要』Vol.63,1 号， 2012 年 8 月, pp.211-244. 査読なし

⑥藤本将人「「評価研究」からみた社会科研究の方法論と国際化の課題」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第 48 集，2012 年 3 月，pp.57-66. 査読あり

⑦藤本将人「社会科における『思考・判断・表現』の評価のあり方－全国学力・学習状況調査（国語・算数）からみえる社会科学力－」日本教材文化研究財団『研究紀要』第 41 号, 2012 年 3 月, pp.45-53. 査読なし

⑧細川遼太・藤本将人「社会科における学習評価の設計－単元「都市形成の論理」の場合－」『北海道教育大学紀要』Vol.62,2 号, 2012 年 2 月, pp.189-203.　査読なし

〔学会発表〕（計 21 件）

①藤本将人「今，求められる社会科授業の視点」根室市教育研究会社会科部会，於:根室市立落石中学校，2013 年 11 月 13 日

②藤本将人「子どもの多様性を踏まえた社会科授業改善研究－附属中学校と公立中学校の比較による授業改善情報の抽出と共有－」全国社会科教育学会第 62 回全国研究大会，於：山口大学課題研究発表，2013 年 11 月 10 日

③藤本将人「パネルディスカッション　課題克服に向けて」北海道新聞社と北海道教育大学釧路校との共同研究成果報告会，於：北海道教育大学釧路校，2013 年 11 月 1 日

④藤本将人「実践成果報告　論点整理」北海道新聞社と北海道教育大学釧路校との共同研究成果報告会，於：北海道教育大学釧路校，2013 年 11 月 1 日

⑤藤本将人「研究成果報告　社会科と NIE 類型論」北海道新聞社と北海道教育大学釧路校との共同研究成果報告会，於：北海道教育大学釧路校，2013 年 11 月 1 日

⑥藤本将人「琵琶湖の景観と人々の暮らしと環境保全」鶴居村教育委員会社会科部会，於：鶴居村立鶴居中学校，2013 年 9 月 11 日

⑦藤本将人「社会科における“問い”の構造－授業を客観的に語るための方法－」根室管内社会科教育研究会 夏の学習会，於：中標津町立中標津東小学校，2013 年 8 月 31 日

⑧藤本将人「ポートフォリオという授業／評価実践の在り方」北海道教育大学附属釧路小学校平成 25 年度研究大会，於：北海道教育大学附属釧路小学校，2013 年 7 月 29 日

⑨藤本将人「今，求められる「学力」と社会科」根室管内社会科教育研究会 冬の学習会，於：中標津町立中標津東小学校，2013 年 2 月 2 日

⑩藤本将人「今，求められている「学力」を育成するためには，どのような授業を組み立てればよいのか」釧路教育研究所，於：釧路教育研究所，2013 年 1 月 11 日

⑪藤本将人「今，育成が求められている「学力」とはどのようなものか」釧路教育研究所，於：釧路教育研究所，2013 年 1 月 11 日

⑫藤本将人「各教科における評価の在り方－今日的な教育活動についての課題・方向性－」白糠教育研究所，於：白糠町立白糠小学校，2012 年 10 月 24 日

⑬藤本将人「新しい教育課題－評価のあり方をどう考えるか－」北海道別海町教頭会，於：別海町役場，2012 年 9 月 18 日

⑭藤本将人「社会科における評価の在り方－「思考力」をどう育むか－」釧路教育研究

所，於：釧路教育研究所，2012 年 9 月 11 日

⑮藤本将人「社会科における自己評価の在り方」北海道教育大学附属釧路小学校平成 24 年度研究大会，於：北海道教育大学附属釧路小学校，2012 年 7 月 25 日

⑯藤本将人「身近な社会から教材発掘－社会科の楽しさを子どもとともに－」根室管内社会科教育研究会, 於：中標津中学校, 2012 年 2 月 4 日

⑰藤本将人「学習機能に着目した社会科評価のあり方－評価実践による思考力・判断力・表現力の育成」日本社会科教育学会第 61 回　全国研究大会（北海道大会）於：北海道教育大学札幌校,課題研究発表, 2011 年 10 月 23 日

⑱鎌田浩子・川邊淳子・濱地秀行・藤本将人・太田和幸・大西康史・野口泰秀・秋山玲奈・小林あい「教員養成課程における金融教育実践者育成のためのカリキュラム開発－北海道教育大学講義「金融教育」の場合－」日本社会科教育学会　第 61 回　全国研究大会（北海道大会）,於：北海道教育大学札幌校,自由研究発表, 2011 年 10 月 23 日

⑲藤本将人・樋口達也・中村拓人・林祐史・細川遼太「地域教材を活用した歴史授業の創造－動揺する江戸幕府：厚岸の史実が示すもの－」日本社会科教育学会　第 61 回全国研究大会（北海道大会）於：北海道教育大学札幌校,自由研究発表, 2011 年 10 月 22 日

⑳藤本将人「社会科カリキュラムと社会科授業研究」根室管内社会科教育研究会,於：中標津中学校, 2011 年 9 月 10 日

㉑藤本将人「他大学における附属校との共同研究に学ぶ－静岡大学，和歌山大学の場合－」北海道教育大学釧路校附属・大学共同研究プロジェクト，於：北海道教育大学附属釧路小学校，2011 年 5 月 30 日

〔図書〕（計 2 件）

①藤本将人「社会科における資料（1）文字資料」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012 年 4 月, pp.212-219.

②藤本将人「価値分析としての公民学習」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書，2011 年 10 月，pp.165-168.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕（計 15 件）

①藤本将人「道新と釧教大 NIE 実践研究 2 年　教師に新聞読む意識「活用 4 類型」教える指針に」北海道新聞 2014 年 3 月 31 日朝刊

②藤本将人「過疎・過密の問題－ミニ討論になるネタ」明治図書『社会科教育』2013 年 12 月号，pp.16-17.

③藤本将人「連載⑥“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－社会が分かるという体験を創る－」明治図書『社会科教育』2013 年 9 月号，pp.124-125.

④藤本将人「連載⑤“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－実感を導く－」明治図書『社会科教育』2013 年 8 月号，pp.124-125.

⑤藤本将人「連載④“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－説明のためのひな形を手に入れる－」明治図書『社会科教育』2013 年 7 月号，pp.124-125.

⑥藤本将人「連載③“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－多元性を問うてみる－」明治図書『社会科教育』2013 年 6 月号，pp.124-125.

⑦藤本将人「連載②“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－複数の視点で教材を用意する－」明治図書『社会科教育』2013 年 5 月号，pp.124-125.

⑧藤本将人「連載①“そうだったのか”発見と納得のある導入ネタ－教材づくりへのアプローチ－」明治図書『社会科教育』2013 年 4 月号，pp.124-125.

⑨藤本将人「リレー連載　わが県の情報　ここにこの授業あり　北海道の巻」明治図書『社会科教育』2013 年 4 月号, pp.132-133.

⑩藤本将人「北方領土をロシアが返還しない訳」『社会科教育 2013 年 2 月号』明治図書, 2013 年 2 月 1 日発行，pp.24-25.

⑪藤本将人「世界とつながるモノ・ヒト・コト」『社会科教育 2012 年 10 月号』明治図書，2012 年 10 月 1 日，p.46.

⑫藤本将人「「思う」から「考えられる」へ」『社会科教育 2012 年 9 月号』明治図書, 2012 年 9 月 1 日，p.11.

⑬藤本将人「社会科授業の目標の転回」『社会科教育　2012 年　5 月号』明治図書, 2012 年 5 月 1 日，pp.14.

⑭藤本将人「様々な立場からの授業研究の推進」『現代教育科学　2012 年　1 月号』明治図書, 2012 年 1 月 1 日.p.13.

⑮藤本将人「北アメリカ」を表す重要語彙のオモシロ逸話」『社会科教育　2011 年　9 月号』明治図書, 2011 年 9 月 1 日,pp.94-95.

６．研究組織

(1)研究代表者

藤本　将人（FUJIMOTO Masato）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：10404229

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

小林　一博（KOBAYASHI Kazuhiro）
北海道教育大学附属釧路中学校・主幹教諭・社会科担当

村瀬　清史（MURASE Kiyofumi）
北海道教育大学附属釧路中学校・教諭・社会科担当

筧　豊（KAKEI Yutaka）
北海道教育大学附属釧路小学校・教諭・社会科担当

池田　泰弘（IKEDA Yasuhiro）
釧路市立春採中学校・教諭・社会科担当

樋口　達也（HIGUCHI Tatsuya）
標茶町立阿歴内中学校・教諭・社会科担当

今野　碧（KONNO Midori）
厚岸町立高知中学校・教諭・社会科担当

細野　歩（HOSONO Ayumu）
釧路町立富原中学校・教諭・社会科担当

細川　遼太（HOSOKAWA Ryota）
岩手県陸前高田市立陸前高田第一中学校・教諭・社会科担当

中村　拓人（NAKAMURA Takuto）
初山別村立初山別中学校・教諭・社会科担当

林　祐史(HAYASHI Masafumi)
釧路市立鳥取中学校・教諭・社会科担当

森田 耕平(MORITA Kohei)
釧路町立別保中学校・教諭・社会科担当